

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:2024年 4月 19日

事業所名 どんぐり学園 河南校

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		活動スペースを階で区別している。	1階のプレイルームのみでもスペースは適切ですが、2階の指導訓練室も利用し、パニックになってしまった子どもが落ち着ける場所としても使用しています。
	2	職員の配置数は適切である	○		保育士または児童指導員の資格を有した職員を配置している。	今後はOT等の専門職員の採用も検討していきます。また強度行動障がいに対するの知識を増やしていきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている		○	子どもたちの動きに目を配り、危険なことを教えたり、一緒に階段を上ったり練習している。	安全性やバリアフリーについては、あえて死角を作っていたり、階段に柵を設けないようにしています。子どものプライバシーの確保や危険の察知等の療育支援に役立てています。先生も目配りしていますが、保護者様へのご説明も詳しくさせていただきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日掃除をして清潔を保っています。また感染対策に基づき、午前、午後の消毒タイムも実施しています。	子どもたちが自由に動き回れるようにプレイルームの空間を広くとっています。また子どもたちと一緒にお片付けやお掃除の活動もしています。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		毎月の職員会議を行い目標と振り返りに努めている。	全職員が情報を把握できるよう毎月の職員会議には参加し、会議のフィードバックも行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		意見として取り上げ業務改善につなげている。	評価表の他に日々の送迎の際や連絡帳での保護者様の意向は、すぐにできるものはその日から行うよう心掛けています。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		学園玄関へのファイルの掲示、ホームページへの情報公開。	来園された保護者様や見学に来られた方にも掲示物の案内をし、またホームページの周知もしていただけるよう努めています。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価は現在行っておらず、今後法人本部とも第三者外部評価について話し合っていきます。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		毎月の職員会議や自立支援協議会等の研修に参加。	研修経過ウニに基づいて、内部研修だけではなく、積極的に外部への研修に参加することを推奨しています。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		毎月の職員会議でも課題を抽出し計画を立てている。	定期的な面談以外にも、連絡帳や送迎の際に要望などをお伺いし計画作成に反映させています。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		個々の能力、特性にあった支援をおこなっている。	今後も研修等に参加し、各々により適したものを作成していきます。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		支援計画をもとに、毎日の療育に反映させていっている。	今必要なものは何かを保護者様と一緒に考え、児童発達支援計画書を作成しています。小さい目標達成の積み重ねをして支援内容に設定することを心掛けています。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		支援計画をもとに、楽しく活動できるようにしている。	保護者様の声を大事にして計画書に反映し、子どもたちが毎日楽しく通える学園作りを目指しています。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当を中心に毎月の職員会議でおこなっている。	日々の活動の中で気になることや活動状況を担当に伝え、職員会議で考えています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		毎月見直しを行っている。	製作等は試作品を作ってみたり、新しい試みをする場合は職員全員で考えるようにしています。
16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団で活動する課題、個人の活動課題を行っている。	集団活動による適応能力の向上をメインとしていますが、個別活動の時間も組み合わせる療育を行っています。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日確認している。	ある程度の役割分担を決め、当日の細かい内容については来園前の様子も聴取して判断、確認を行っています。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		毎日確認している。	気づき等の振り返りで改善することは翌日から行うよう心掛けています。また職員会議の議題にもあげるようにしています。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別の記録を毎日記入している。	ケース記録については今後の活動のヒントにもつながるため、毎日記録することを徹底しています。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○		半年に一度定期面談を行っている。	定期面談の他にも個別に面談を行ったり、連絡帳や送迎の際または電話相談を行い、これからも随時行っていきます。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		事業所の職員が参画している。	児童発達管理責任者が職員の情報を集約し、担当者会議に参加できるようにしています。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		保健所や保健センターへ訪問したり、問い合わせがあったりと良好な関係にある。	特に保健師の方にいつも声をかけて頂き、密接した連携がとれています。今いるお友だちは保健師の方からのご紹介が多数で今後も連携を取りたいと考えます。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○	受け入れは難しい。	看護師等の専門職がおらず、現在は受け入れを見合わせています。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○	受け入れは難しい。	看護師等の専門職がおらず、現在は受け入れを見合わせています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の方を通じ承諾を得てから、連絡を取り合うようにしている。	『つながるシート』等を利用し情報共有に努めています。移行に際しては事前に連絡をし、可能であれば在園中に子どもの様子を見学に来ていただけるよう要請もしています。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		保護者の方を通じ承諾を得てから、連絡を取り合うようにしている。	『つながるシート』等を利用し情報共有に努めています。移行に際しては事前に連絡をし、可能であれば在園中に子どもの様子を見学に来ていただけるよう要請もしています。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		専門機関が主催する研修に参加している。	必要に応じて利用前、利用中に関わらず、専門機関にはこれからも助言をお願いしたり、研修に参加して知識を広げていきたい。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○		ハルナ幼稚園や地域の保育園、図書館、児童館への訪問を行っている。	法人内での交流活動を中心に行う事ができた。現在の活動の輪をもっと広げるために、積極的に地域の行事に参加していきたいと思います。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○		協議会が主催する研修に参加している。外部研修にも職員を派遣している。	自立支援協議会での研修の他に、地域の事業所連絡会議の開催には積極的に参加していきます。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		連絡帳への記載、送迎の際の伝達することで共通理解できているようにしている。	保護者様にはいろいろな子どもの状況をいつも伝えて頂き感謝しています。ちょっとしたことでも何でもご相談下さい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている		○	ペアレントトレーニングは行っていない。	専門的なペアレントトレーニングについては行っていませんが、家族支援の観点から今後も寄り添った支援を行い、一緒に考えていく、成長していくことを目標にしています。また外部の情報提供をしています。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用面談の際に冊子を使って説明している。	事前面談、見学の際に冊子を用いてご説明させて頂いております。また利用中も定期面談やご質問のあった際にわかりやすく説明できるよう心掛けています。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○		保護者との面談を行い、説明は分かりやすい言葉で伝えるようにしている。	子どもや保護者の方々のご意見や悩みなども取り入れ、これからも計画書に反映していきたいと思います。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		連絡帳に書いてあることも多いので、必ずその日に返信するようにしている。	連絡帳や定期面談以外にも必要に応じて、気持ちに寄り添えるような手助けができればと思っています。ちょっとしたことでもご相談して頂けることが嬉しいです。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	イベントの開催はしているが回数は少ない。また父母の会など保護者の負担になるものは極力していない。	夏の親子パーベキューを開催。卒園遠足等、保護者参加型のイベントを復活させていきたいと思っています。また保護者様からのご要望も伺い検討させていただきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○		日々子どもや保護者様とのコミュニケーションを大事にしていきたい。	日頃より何でも言ってもらえるような事業所作りを目指して、出来ることはその日のうちにを目標に、これからもコミュニケーションをとっていききたいと思います。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		毎月の学園だよりを配布している。またホームページ上のダイアリーにて随時情報発信している。	毎月の学園だより、行事予定表、毎日の連絡帳、電話や口頭でも何か一つでも多くの子どもたちの情報を保護者様に伝えられるように心がけています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○		細心の注意をしています。	記録の保管やパソコンのロック等も含め、個人情報には常に注意を払うようしています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		分かりやすい言葉やカードを使ったりして工夫している。	連絡帳の文字を平仮名やカタカナで書いたり、分かりやすい簡単な言葉やゼスチャー等を使用したりとできるだけ配慮を心掛けていきます。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		散歩や清掃活動等を行っている。	地域のだんじり祭りの際は事業所を開放する等したり、日々の活動(お散歩探検や公園あそび)の中で、地域の方々と接することができるようなことをしています。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		毎月の職員会議等で研修を行っている。	職員には研修を、保護者様には随時お伝えしています。今後もしっかりとした冊子を作成する等、周知に努めて参ります。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		毎月災害時避難訓練を子どもたちと一緒にやっている。	毎月の訓練以外にも、子どもたちに分かりやすいように言葉だけでなく、日々の活動、あそびの中にも必要なスキルを身に付けることができるよう工夫しています。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○		事前面談の際に必ず必要事項として冊子をもとに説明している。	風邪薬や頓服薬も含めて説明書等もご提出頂き、その都度状況を説明して下さる保護者の方々に感謝しております。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	お弁当持参のため、医師の指示書はもらっていません。	食物アレルギーについては事前面談の際に確認はしています。食事の提供を行っていないため、保護者様からの聴取のみで医師の指示書は頂いておりません。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		問題解決レポートなどを使っている。	事例集ではなく、法人のものを活用して事故の予防にも活用しています。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		職員会議の際に実施している。	毎月の職員会議の中に虐待防止研修も取り入れていきます。新しい情報や研修で得た内容もフィードバックできるようにしています。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○		安全のため書面にし、承諾書を頂いている。	承諾書に記載している内容は扉の施設のみで、これは外部からの侵入者対策の観点から書面にしています。どのような場合に対しても施設の他の身体拘束を行うことをすることがないように体制作りしています。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。